

平成21年（2009年）3月20日発行



学位取得おめでとう 卒業生に贈る言葉

卒業おめでとう。この春、諸君は、社会のさまざまな場面に、技術を携えて羽ばたいて行かれます。きっと、期待と不安とが交差していることでしょう。生産の現場、開発の現場、設計の現場、あるいは販売、保守の現場と、技術を活かす場は多様であることでしょう。

晴れて学位を取得された学部並びに大学院の諸君、まことにおめでとうございます。諸君は、いよいよ社会という荒波の中へ出て行かれることになりました。諸君が足を踏み入れる社会は、いま日進月歩で変化、変革のスピードを加速しつつあります。したがって、このスピードを常に意識して、追いつき・追い越さなければなりません。そのためには、日夜、研



学長 柳澤 章

長い技術者としての人生を考えると、最初の現場が大学時代にあることが必ずしもラッキーとは言いかねません。全く畑違いの仕事をやられて、はじめは戸惑って、自分にとっての新鮮な手法に興味がいったり、その分野の専門家から、「今度の

新人は目のつけどころがユニークだ」と評価されたりするなかで、力を発揮していく例は珍しいことではないから。それが技術の面白いところだともいえます。

成長する技術者とは、新しい知識・知見を、好き嫌いなく貪欲に吸収していく雑食家である

鑽を怠らないように心がけ、行動することが不可欠です。

最近では、社会は日本という枠の中だけではなく、先進国、新興国を含めてグローバルな状況で刻々と変化を続けております。我々は常にこの変化に積極的、かつ革新的に対応していかなければなりません。



理事長 大川陽康

諸君がこれから挑戦する社会の仕事には、肉体的労働と頭脳労働がありますが、いうまでもなく諸君のほとんどは頭脳労働に携わることになると思います。頭脳労働に必要なのは、膨大な知識に加えて、その中から新しく価値の高い情報を生み出す知恵が要求されます。知識を高め

大きく成長するエンジニアに 体感して得た技術で、

この分野の技術を知識として使ったものづくりを通して、技術を体感して習得し、エンジニアとしての素養を養ってきた人材です。その素養を大きな力として、製品作りの素材、建築資材・素材の価値、技術の価値を十分に活かす技術者として活躍していただきたいと思えます。

君たちがそれぞれの場所で「あいつを活かさなければいけない」と言われる人材となることを期待します。

研鑽と、知恵を生み出す研鑽を忘れないことが肝要なのです。

最近ほとりわけ「情報化社会」と言われるように、私たちのすべての仕事や生活が情報によって左右される状況になっております。その情報の世界的産出が加速度的であり、ますますグローバル化しております。この情

日々の研鑽で

グローバルな変化に対応

報グローバル化と加速化に対応できないければ、われわれの仕事や生活は「敗北」するかもしれないのです。私たちは、常にグローバルな相手と戦って勝ち続けなければなりません。そうした心構えと行動を続けることが必要なのです。

度、そして何を提供できるのかを自らに問う姿勢が、伸びる技術者の資質といえるのではないのでしょうか。今日、工業分野は環境負荷低減の技術を抜きにしては考えられません。通信分野、建築分野においても全く同様です。自分が携わっているものが、生産さ

たといっても差し支えないでしょう。日本はその反動をねばり強い国力で何とかはね返していきませんが、これからはアメリカのみならず、世界のどこで何が起るか予測できないので、常に緊張した対応を続けることが必要だと考えます。

大学院に進まれる諸君もまた、どうか研究に邁進して、独自の視点で論文を仕上げてください。本学は、在学中は勿論、卒業された諸君に対しても、常に応援する姿勢をもってまいります。したがって、社会に出てからも何か悩みや問題に直面したら、遠慮することなく、いつでも本学へ来て、諸先生に相談に乗っていただくようにしてください。

諸君の健康を祈ります。

諸君は日本工業大学で、それぞれの分野の技術を知識として使ったものづくりを通して、技術を体感して習得し、エンジニアとしての素養を養ってきた人材です。

い、その技術ニーズは衰えないだろうと考えられます。ところで、日本語の「もったいない」という言葉があります。「ムダづかいをしなさい、大切にしろ」という意味とともに、「価値あるものが、その価値が正当に生かされるべき」という意味が込められているのではないのでしょうか。

MOT大学院に求められる 「能力」とは

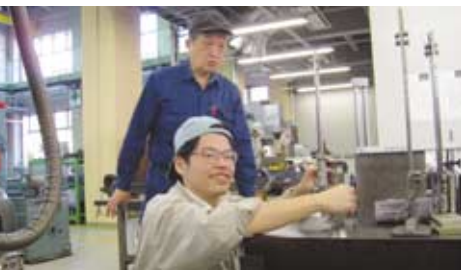
MOT（技術経営）協議会なる団体がある。MOT教育を行っている専門職大学院相互の連携を深めようという組織であり、わが専門職大学院もそのメンバーになっている。目下、この協議会では、加盟校各校が提供しているMOT教育の根幹をなすべきカリキュラム（コア・カリキュラム）を策定すべきかどうか、策定するに当たるとどのようなカリキュラムにすべきかを「力や特性」である「コンピ

要は、大学院が学生に教える、習得させるべき「能力」の問題である。ここでいう能力には、「読み書きの能力」のような「リテラシー」もあれば、「成果を挙げうる能力」である「コンピ

本年度のレッジマイスターの称号は、次の8工房から51名が認定され、学位記授与式で認定と金メダルが与えられる。レッジマイスタープライマリは4工房から53名が誕生する。授与式は、来年度4月の各学科

レッジマイスター 51名

レッジマイスター プライマリ 53名



楽しそうに製作に取り組む学生（機械加工工房）

のオリエンテーション時に行われる。レッジマイスターの称号を得た諸君には、総合的な判断力を持ち、それぞれの生産現場においてプロジェクトリーダーを務めることができる技術者として、ますますの精進と今後の活躍が期待されている。

- 型技術工房 2名
- 余勇、鈴木雄真
- エンジン工房 6名
- 新井圭一、嶋村悠司、戸塚剛、中本裕也、丸岡竜司、望月伸哉
- マイコン応用回路工房 6名
- 飯島裕樹、井田松慶、小川知将、奥原郷司、奥原裕史、田邊大真

留学生別科32名修了

留学生別科日本語研修課程の修了証書授与式が、3月1日午前11時から校友会館で行われた。今回の修了生は、平成20年秋季入学生29名と19年秋季入学生3名の合計32名。

別に、日本語能力等が認められて、20年秋季入学の2名が学部・大学院にそれぞれ進学を果たしている。



学長から修了証書を受け取る別科生代表

- 2×4木造建築工房 8名
 - 飯野裕司、小山内豊、草野穰、小坂橋駿介、高麗俊、下平論、田中彰、井上俊継
 - ネットワーク構築工房 9名
 - 青木孝之、今村勇樹、大森竜也、野呂侑哉、宮林隆、武藤裕基、森元雄一、原寛、中村仁人
 - 福祉情報機器製作工房 5名
 - 石井佑一、宇賀神勇輔、宮下郁弥、森島健雄、和田涼太郎
 - RoboCupチャレンジ工房 4名
 - 市川将弘、大橋洋介、工藤一輝、佐藤翔平
 - 航空機復元工房 11名
 - 倉持善至、豊島悟、松下直樹、宮川拓也、望月伸哉、上原健吾、加藤翔、佐々木扶紗子、中嶋允那、仁平貴士、船取恭平
 - ものづくり入門工房
 - 荒井一貴ほか30名
 - 物理体感工房
 - 小家惣太ほか7名
 - 電子創造工房
 - 宮崎洋一ほか1名
 - サステナブル建築工房
 - 姉帯亮介ほか11名
- ※4面に関連記事あり

平成二十年度 卒業生一覽

3月20日付 確定者

早期卒業

【機械工学科】 許 昌 龍 (大連外国語学院)

機械工学科

Table listing graduates of the Mechanical Engineering Department (機械工学科) with columns for student names, departments, and schools.

電気電子工学科

Table listing graduates of the Electrical and Electronic Engineering Department (電気電子工学科) with columns for student names, departments, and schools.

建築学科

Table listing graduates of the Architecture Department (建築学科) with columns for student names, departments, and schools.

